

画期的な核酸医薬品の臨床応用に向けてコンジュゲート修飾による対費用効果の最大化

プロジェクト
責任者

大阪大学大学院医学系研究科 疾患データサイエンス学

特任教授（常勤） 石井 秀始

プロジェクト概要

- 標準的な治療法では治せない難治性消化器がんを対象とします。
- 大阪大学がもつ先進的なシーズとして、核酸医薬品を応用します。
- 核酸医薬は、精密な制御が可能な医薬品として、注目を集めています。
- 本シーズは核酸医薬品として、「がん幹細胞」とその微小環境を標的にします。
- すでに基本的な非臨床試験が進捗して、特許化されています。
- 製薬系企業の協働による開発の加速化が期待されます。

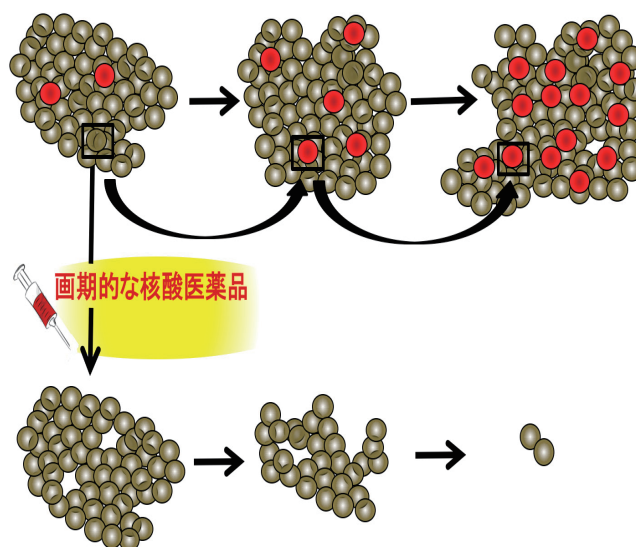
■戦略：

2020年グローバル市場規模予想が5000億ドル規模(50兆円)とされるがんの医薬品業界で、成功の鍵を握ることは、「差別化」です。

私たちの本シーズは、世界初のコンセプトです。

さらに、臨床応用を効率化するために、特殊な手法を用いています。

基本シーズは特許化し、さらに周辺を固めています。



世界初のがんに対するコンジュゲート修飾核酸医薬品の実現

腫瘍の微小環境にマッチさせる戦略で、既存法を超えるピンポイントの攻撃

基本的な前臨床試験は完了しています